http://decfamily.p1.bindsite.jp/2012/

We 15R

No.123　12/12/17

星の歌、星はすばる

▼12月13日（木）　●●

１　英語Ⅰ

＊ソクタン　クロスビーム　Lesson4

２～３　数学　整数

＊以前●●君が、Ｔ木先生は江戸っ子と書いていましたが、同感です。

４　地理　各国のエネルギー

５　地学　太陽系の惑星

＊組曲「惑星」はイイ曲ですよね。

６　日本史　平安中期

＊Ｎ里Ｔ復活！（放浪の旅かと思ってました）

７　体育　柔道･剣道･ダンス

今日は午後先生はいらっしゃらないとのことで、家でゆっくり書いています。テスト明けの部活は膝にきますね…。最近はぐっ～と寒くなって、登下校が辛いです。でも、冬は星がきれいですよね！夏にはコンに灰色を混ぜたような色の空が、冬になると濃紺になって、星がハッキリとしてきて、しかも外は寒いので頭もハッキリして、そういう雰囲気はけっこう好きだったり…。未明はもっと星がキレイです。この前、バド部恒例のディズニーで、これまた恒例の１年男子「始発組！」。この時4:40くらい（早）に玄関を出ると、目の前に北斗十字星が！まさか東京世田谷ではっきり見られるとは思わず、感動しました！その日はディズニーリゾートラインで日の出を迎えました。冬はつとめて、とは言うものの、夜･未明もいとをかし。清少納言は星は見なかったんでしょうかねぇ。百人一首にも月の歌はいくつかありますが、星の歌は見受けられず、日本人は星に注目しなかったのでしょうか？それともいつも同じようではかなさが足りない？はたまた宮中の女性は寒くて外へ出ないのかな？きれいなんですけどねぇ。皆さんも帰り道、ちょっと空を見上げてみて下さい。

☆シリトリ：しりとり→レグルス（獅子座、ちなみに僕は獅子座です）

＊

百人一首の中には確かに星の歌はなくて、

「かささぎの渡せる橋に置く霜の
　白きを見れば夜ぞ更けにける（家持）」

（訳）七夕の日、牽牛と織姫を逢わせるためにかささぎが翼を連ねて渡したという橋、天の川にちらばる霜のようにさえざえとした星の群れの白さを見ていると、夜もふけたのだなあと感じてしまうよ

が比喩的に星を詠んだ唯一のもの。農耕民族であった我々の祖先は、カレンダー替わりとしての月には興味をもったようだが、星にはあまり興味を持たなかったかも知れない。ただ、『万葉集』には、

「天の海に雲の波立ち月の船
　星の林に漕ぎ隠る見ゆ」

という歌もある。また、『枕草子』には、

「星はすばる、彦星、夕筒。よばい星、少しをかし。尾だになからましかば、まいて。」

とある。やはりそれなりに関心があったに違いない。ところで、シリトリ、「り」なのに「レ」になってるんだけど…？